

た共通の経費によることがいるんな点で大変望ましいことが判明してきたわけです。現在外国雑誌の購入に充てられている研究費について、その一定率をあらかじめ図書館に共通経費として配分していただくことが望まれる次第です。附属図書館は少しずつではありますが、FRAF資料室の設置（昭和40年）、バックナンバーセンターの設置（昭和60年）、日本における理工学系外国雑誌センター館の指定（昭和62年）、文部省の大型コレクション経費と特別図書経費による研究用資料の収集、などのように研究図書館的な活動を積重ねてきております。電子図書館化の進展は益々この傾向を加速化するものと考えますが、これが実現されれば研究用図書館資料費に支えられた本格的な研究図書館機能を備えた大学図書館が日本にようやく実現することになるわけですので、この実現は電子図書館化の一層の進展のための当面の目標のように思われます。

3) 統合的電子的サービスの提供

次に、附属図書館が提供している電子図書館的サービスは大学全体の情報化が進まないとい効果的に活用されないと考えています。ワン・ストップサービスが普及してきておりますが、研究者の立場からすると、研究・教育支援として一般事務や図書館からサービスされるだけ多くの手続きが電子サービス化され、それら

が統合されて提供されていることが望まれます。この意味で電子図書館化の次の目標の一つは大学事務の情報化も含めた大学情報化の一層の深化であると考えます。図書館がこの面でもできるだけ大学内の多くの情報化に関心を持ちこれと連携していきたいと考えております。特に大学評価・学位授与機構の大学評価事業の本年度の評価テーマにもなっておりますが、教養教育における対学生サービスの面で教官・事務官・図書館員が連携協力したサービスが望まれます。そうすることによりもう一つの電子図書館化の課題である教育支援の面での一層のサポートの道が開けるものと考えております。

最近、情報化、留学生、国際化、など全学的に取り組んだほうがより効果的で効率が上がる事柄が増えてきております。図書館の研究用資料としての電子ジャーナルの問題はこの典型的な例です。これまで図書館に関する問題は附属図書館固有の問題として商議会で検討されてきておりますが、これとともに、部局を超えた全学に共通する問題について、図書館も教育・研究支援組織の一員として、相互に連携してその解決に寄与できる事例が大学の情報化や電子図書館化の進展とともに増えてくることを願っております。

（かどた やすすけ）

Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's library; a catalogue. Oxford, Oxford Univ. Press, 2000』 のことなど

附属図書館情報サービス課雑誌・特殊資料掛長 松田 博

水田 洋編『アダム・スミス蔵書目録』が2000年11月にオックスフォード大学出版から刊行された。スミスの蔵書約3000冊のほとんどが明らかにされたと言える。

この『目録』が、数多い書誌群の中であってひととき異彩をはなつのは、機関所蔵等資料の所蔵箇所を明確にしているところにある。この

種の資料の所蔵箇所は固定化のはかりにくい流動性の高いものであるが、『目録』は氏の強靱で丹念な仕事の結果を見事にまとめている。心から歓迎したい。同時に、1997年の時点ですでに原稿が完成し、刊行の準備が着々と進行していたにもかかわらず、出版社の都合によって3年余りが費やされたことは極めて残念なことで

あった。编者ならずともこの『目録』の刊行を期待していたものすべてのものが同じ思いを持ったのではないだろうか。このあたりの事情については、水田洋（ 1、 2）を御覧いただきたい。

『目録』の中から、スミス旧蔵書の日本における所蔵状況をとりあげてみると、東京大学経済学部（149部324冊）、日本大学法学部（4部26冊）、日本大学歯科病院（1部1冊）、慶応義塾大学（2部2冊）、関東学院大学（1部1冊）、京都大学経済学部（1部2冊）、同志社大学（1部4冊）、福山大学（1部1冊）、丸善（1部1冊）、日本大学大淵利男名誉教授（1部1冊）に各所蔵の総計162点363冊がある。しかし、これ以外にも大阪大学が1987年度大型コレクションとして購入した「アダム・スミスコレクション」81点144冊の中にスミス旧蔵書1点1冊があり、「『A Collection of Adam Smith』大阪大学附属図書館（1990年3月）」にはその旨の注記がみられる。ちなみに、この旧蔵書は『目録』中ではRiley Smith Rare Books所蔵となっている。そこで、これらの中から京都大学所蔵のトムソン『旅行記』について、これは下記出口勇蔵にすでに詳細な紹介があるが、この資料についてあらためて感想めいたことを記しておきたい。

経済学部創設ほどなくの1923（大正12）年6月5日、アダム・スミス生誕二百年記念会が開催され、藤本ビルブローカー銀行が所蔵するデュガルド・スチュアート旧蔵『国富論』（現在は関東学園大学所蔵）が出陳されていたことはすでに触れた。（ 3）この展覧会は展示内容でそのほかにも興味の引かれることがあるが、そのひとつに驚きというか、見過ごすことのできない出来事がある。それは、同志社大学図書館所蔵アダム・スミス旧蔵書一本が出陳されていたながら、展覧会より遡ること5年前に購入されていた京都大学経済学部所蔵の一本が出陳されていたということである。同志社大学図書館所蔵のそれは、“Of the origin and progress of language. Edinburgh, 1773-1787.”と題する4巻本で、その後山崎怜の調査によって明らかに

されているように、モンポドの著になる『言語起源論』である。柴山健三がロンドンに留学していた1913、4年頃古書店で買い求めたもので、その後同志社大学の教師として赴任した柴山が1917年同志社大学に寄贈したものである。

京都大学経済学部所蔵のものは、“[Thomson, William:] Travels in Europe, Asia, and Africa; describing characters, customs, manners, laws, and productions of nature and art: containing various remarks on the political and commercial interests of Great Britain: and delineating, in particular, a new system for the government and improvement of the British settlements in the East Indies: begun in the year 1777, and finished in 1781. London, J. Murray, 1782.”と題する2巻本で、1918（大正7）年11月16日にミュージアム・ブック・ストアから12円20銭5厘で購入したものである。この購入価格から推察されることは、同書が1918年の購入時点ではスミス旧蔵書であるとの認識をもっていたということである。ところが、このスミス旧蔵書は1923年の展覧会に出陳されなかったのである。これはいったいどういうことなのだろうか。

“貴重書”は日本の大学では時として学術・研究利用と離反することがしばしば起こる。ましてや1920年前後というかなり以前の話であってみれば、容易にそうした現象が想像されるのである。トムソン『旅行記』は購入後“貴重書”として保管されたが、スミス旧蔵書としての十分な広報がなされず、その結果展覧会の時点ではその存在が忘れられていたと考えられる。その後出口勇蔵が「経済学古典書」の調査の折りに発見し、公表するまで他の貴重書とともに書庫に眠っていたのである。現在の“貴重書”管理のあり方に対しても教訓とすべき象徴的な出来事として捉えておきたい。

最後に、日本の各機関等に所蔵されているスミス旧蔵書について、これまで触れられた主な文献を紹介しながら、各機関ごとにその整理をしておきたい。

東京大学 経済学部 (149部324冊)

「Alembert, Jean de Roud d' 『Éloges lus dans les séances publiques de l'Académie française.』 Paris, chez Panckoucke, 1779.」
等 141部308冊

・『Adam Smith's Library.』岩波書店
(1951年6月)

・矢内原忠雄「東大経済学部所蔵アダム・スミス蔵書について」(「第一回アダム・スミスの会」(1949年12月)[『アダム・スミスの味』東京大学出版会(1965年6月)に再録]

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『商学論集』25巻1、3号(1956年5月、11月)[『アダム・スミスの味』(1965年6月)に再録]

「Thomas, Slack 『The British negociator; or, Foreign exchanges made perfectly easy.』 London, J.Richardson, 1759.」

・大河内一男「S.Thomas, The British Negociator について」『アダム・スミスの味』東京大学出版会(1965年6月)

「Italian Manuscript. 『Ms., on parchment. of Venetian statutes. n.p., no pub., n.d.』」

・田添京二「羊皮紙・手書きの一本『ヴェネチア刑法』について」『アダム・スミスの味』東京大学出版会(1965年6月)

「Waller, Edmund 『Poems, &c. Written upon several occasions, and to several persons.』 6.ed. London, H.Heringman, 1694.」

「Tott, François, baron de 『Mémoires du baron de Totto, sur les Turcs et les Tartares.』 Pt.1-4. Amsterdam, no pub., 1784.」

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『経済学論集』第40巻第3号 東京大学経済学会(1974年10月)[『続アダム・スミスの味』東京大学出版会(1984年8月)に加筆再録](上記2点)

「[Poivre, Pierre] 『Voyages d'une

philosophe; ou, Observations sur les mœurs & les arts des peuples de l'Afrique, de l'Asia et de l'Amerique.』 Yverdon, no pub., 1768」

・大河内暁男「アダム・スミス文庫新収蔵書について」『経済学論集』第42巻4号 東京大学経済学会(1976年12月)

慶応義塾大学 (2部2冊)

「『Anacreontis Teii carmina Graece e recensione Guilielmi Baxteri cum eiusdem Henr. item Stephani atque Taneguidi Fabri notis.』 Lipsiae, G. Mulleri, 1776.」

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本學士院紀要』55巻1号(2000年10月)

「Nicholson, William 『The Scottish historical library: Containing a short view and character of most of the writers, records, registers, law-books, &c., which may be serviceable to the undertakers of a general history of Scotland, down to the union of the two kingdoms in K. James the VI.』 London, L.Child, 1702.」

・Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's Library; a Catalogue. Ed. with an introduction and note by Hiroshi Mizuta.』 London, Oxford Univ. Press, 2000.

日本大学 法学部 (4部26冊)

「Galilei, Galileo 『Opere di Galileo Galilei.』 Vol.1-2. Bologna, HH. del Dozza, 1656.」

「Gibbon, Edward 『The History of the decline and fall of the Roman Empire.』 Vol.1-6. London, W.Strahan, 1776-1788.」

「Swift, Jonathan 『The Works of the rev. Dr. Jonathan Swift, dean of St. Patrick's, Dublin.』Vol.1-17.London, W.Strahan, 1784.」

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『経済学論集』第40巻第3号 東京大学経済学会(1974年10月)[『続アダム・スミスの味』東京大学出版会(1984年8月)に加筆再録](上記3点)

「Piozzi, Hester Lynch 『Anecdotes of the late Samuel Johnson, LL.D. during the last

twenty years of his life. 』14.ed. London, T.Cadell, 1786.」

- ・ Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's Library; a Catalogue. Ed. with an introduction and note by Hiroshi Mizuta. 』 London, Oxford Univ. Press, 2000.

日本大学歯学部 松戸病院 (1部1冊)

「 Hunter, John 『 A Treatise on the venereal disease. 』 London, no.pub., 1786. 」

- ・ 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本
學士院紀要』55巻1号 (2000年10月)

関東学院大学 (1部1冊)

「 [Mackenzie, Henry] ed. 『 The Lounger. [No.1.] Saturday, Feb. 5. 1785, [-No.CI., 6 January 1787.] 』 [Edinburgh, W. Creech,] 1785-1787.

- ・ 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本
學士院紀要』55巻1号 (2000年10月)

京都大学 経済学部 (1部2冊)

「 [Thompson, William] 『 Travels in Europe, Asia, and Africa. 』 Vol.1-2. London, J.Murray, 1782. 」

- ・ 出口勇蔵「W.トムソン『ヨーロッパ・
アジア・およびアフリカ旅行記』(1782
年)について」『アダム・スミスの味』
東京大学出版会 (1965年6月)

同志社大学 (1部4冊)

「 [Monboddo, James Burnett, Lord] 『 Of the origin and progress of language. 』 Vol.1-4. Edinburgh, A.Kincaid & W. Creech, 1773-1787. 」

- ・ 山崎 怜「あるスミス蔵書のこと」『香川
大学経済学論叢』第44巻1号 香川大学経
済学会 (1971年4月) [『続アダム・スミ
スの味』東京大学出版会 (1984年8月)
に再録]

大阪大学 (1部1冊)

「 Sannazaro Jacopo 『 Arcadia del dignissimo homo messer Iacopo Sannazaro gentilhvomo Napolitano. 』 Novamente stampata & diligentemente corretta. Venetia, N. Zopino, 1524. 」

- ・ 『 A Collection of Adam Smith 』 大阪大学
附属図書館 (1990年3月)

福山大学 (1部1冊)

「 Boccaccio, Giovanni 『 Il Decameron di M.Giovanni Boccaccio nuovamente corretto et con diligentia stampato 1725. 』 Londra, T. Edlin, 1725. 」

- ・ 「福山大学四大古典派経済学者著作コレ
クション」『福山大学附属図書館報』三
蔵』特別号』福山大学附属図書館
(1989年3月)

日本大学 大淵利男名誉教授 (1部1冊)

「 [Gordon, George] 『 The History of our national debts and taxes from the year MDCLXXXVIII. to the present year MDCCLI. 』 London, M. Cooper, [1751-1753] 」

- ・ 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本
學士院紀要』55巻1号 (2000年10月)

1 : 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」
『日本學士院紀要』第55巻第1号 (2000
年10月)

2 : 水田 洋「私のアダム・スミス研究」
『一橋大学社会科学古典資料センター
年報』No.20 (2000年3月)

3 : 松田 博「『静情』総目次を読む」
『静情』Vol.36, No.4 (2000年3月)

(まつだ ひろし)